

3. 第5次中期方針（2024年～2026年）

I. 基調

生涯にわたり、組合員のくらしを支え、組合員の想いをつなげる生協をめざします。

1. 組合員と一緒にコープあいちへの参加を通じて事業・活動を理解し、地域に根差した協同、たすけあいの輪をひろげ、生協商品がくらしになくてはならない生協ファンを増やします
2. あらゆる世代のくらしに寄り添い、特に子育て世代とシニア世代のくらしに一番頼られ、さまざまなライフステージで必要とされる生協をめざします。
3. コープあいちの事業ネットワーク※をいかし、行政・他団体、企業と連携し、安心してくらせる地域づくりをめざします。

※事業ネットワーク＝各事業と活動が協力しあいながら組合員のくらしに貢献すること

II. 重点課題

1. 仲間づくりをすすめ組合員60万人を達成し、愛知県におけるコープあいちの存在感をさらに高めます。

（1）仲間づくり、利用者づくり

- ①仲間づくりは、子育て層の加入促進を重点とします。デジタルマーケティングを活用して認知度を高め、積極的にアプローチし、また世代や世帯ごとのニーズを把握して、組合員の満足度やロイヤリティを向上させます。組合員発で「コープあいち、いいね！」が広げられる組織をめざします。
- ②利用者づくりは、組合員視点からコープあいちの事業連携を通じて総合力を発揮します。東海コープとの連携を強め、組合員の要望に沿った商品や生協ならではの品揃えを強め、生涯にわたり組合員のくらしに貢献することを価値として利用者づくりにつなげます。組合員・職員が商品・サービスの魅力について語り、広げるしくみを構築します。また、組合員活動への参加による価値を地域に知らせ、幅広い年代にコープあいちの事業と活動を広げます。

（2）安心してくらし続けられる地域社会づくり

- ①日常的に行政、県内の協同組合、他団体との連携を一層強め、地域の困りごとや課題解決に向け相談、貢献できる関係を強化します。
- ②これまでつながりのなかった多様な組織とも関係を広げながら地域のネットワークづくりを強化し地域の中での役割の明確化と存在感の向上をはかります。

（3）組合員参加やブロックのありかた

- ①組合員参加は新しい「組織運営方針」「組合員参加と運営の仕組み」を広く呼びかけ、コロナ後の新しい活動を再構築します。より参加しやすい多様な組合員活動のあり方にチャレンジします。多様な組合員活動や組合員参加を支え、つないでいくためのコープサポーターの育成やコーディネート機能を強化します。
- ②ブロックは、地域における事業活動の連携や組合員活動、また事業所再編も踏まえて、ブロック運営の次のあり方や再編を検討します。

（4）各世代のくらしの要望に沿った仕組み

- ①商品は安全・安心を軸に「簡単便利」、「時短」、「子育て」、「健康」、「少量目」など、様々なライフスタイルに対応する商品、生協のこだわり商品の開発・改善・品揃えを強化します。
- ②宅配、店舗、福祉、くらしのサポート、共済などコープあいちの強みや特徴である多様な事

業の連携で組合員の生涯にわたるくらしのニーズに応えていきます。

2. 基幹事業である宅配事業を伸長させ強い経営基盤をつくり、店舗事業は将来に向け再構築、福祉事業は安定経営におけ事業を強化、くらしのサポート事業は他事業と連携を深めます。

(1) 宅配事業の強化と伸長

- ①基幹事業となる宅配事業の組合員満足度を向上させるため物流再編やデジタル投資をすすめます。宅配センターの職員定員数基準の見直しによる配送人員の最適化や配送コースの効率化などコスト削減に取り組みます。
- ②生協宅配の価値を更に高めながら新たな価値を提供するなど魅力ある宅配事業を実現し継続利用者を増やします。

(2) 持続可能な店舗事業への再構築と赤字削減

- ①2030年に店舗事業の黒字化を目指すため、再投資が困難な小型店の閉店と再投資可能な既存店の改装、新店、置き換えの展開を進め赤字削減を目指します。
- ②業務改善や業務効率の向上を目指し、店舗支援メンバーによる店舗経営のサポート強化をすすめます。東海コープ商品部と一体化した推進、宅配商品の品ぞろえなどにより、後方費用の改善と適正化を図ります。

(3) 福祉事業の安定経営と人材確保

- ①2024年介護報酬改定に伴い、「サービス別業務指標」を見直し、適切な業務運営を実施します。営業活動を通常業務の一部として効果的に行います。
- ②人材確保は多様な採用活動を展開し、必要な人員確保をすすめます。また人員体制の適正化や事業所再編や集約によるドミナント化や大規模化を目指します。

(4) くらしを支えるサポート事業の強化

- ①利用者のニーズに応えるために事業や活動の改善に努めます。各事業で利用者アンケートを行い、ニーズの分析をして事業に反映させる仕組みを整えます。
- ②くらしのサポート事業部全体として、部内の連携や委託先との協力を重視し持続可能な事業をめざします。

3. デジタル技術を推進させ持続可能な事業や活動へ変革し、業務の効率や生産性の向上、情報提供やコミュニケーションの改善に取り組みます。

(1) 総合アプリの開発

- ①コープあいちの事業全てを案内できる総合アプリ導入の実現に向け具体化します。
- ②先行して導入している他生協の実践なども学び、開発の目的を明確にしながら組合員への新しい価値とサービスを提供し組合員満足度向上を目指します。

(2) 宅配のより便利な仕組みづくりと物流機能の再編検討

- ①東海コープと連携し、組合員の個人データの活用によるサービスの向上を目指します。組合員の個人情報に基づいて、事業間連携による総合力を発揮してそれぞれのニーズに合わせた情報提供を目指します。
- ②ドライセットセンターなど物流の再編を実施します。

(3) システムの更新とセキュリティ対策の強化

- ①現行システム基盤の更新・移行やクラウドの活用を推進します。
- ②セキュリティ対策はサイバー攻撃による情報漏えいや損害賠償、事業継続など様々なリスクに備え、技術的対策とともに、職員の定期的教育・訓練など実施し組織運営的対策を強化します。

(4) デジタル推進への取り組み

- ①組合員とのコミュニケーションをより迅速かつ効果的に行い、つながりや信頼を高め、最適なサービスや情報を提供するため、デジタル技術導入を積極的に取り組みます。
- ②職員のデジタル人材育成は研修やセミナーに積極的に参加し、最新の知識やスキルを身につけます。職員一人ひとりがデジタルツールを活用し、業務効率化や改善提案、創造的な発想を実現できるようになる事を目指します。
- ③広く組合員に学びと多様な活動参加の機会を提供するために、組合員活動におけるデジタル・オンライン活用を積極的にすすめます。

4. 持続可能な社会や社会的な問題解決に向け行政や他団体、他企業と連携し、2030ビジョンの柱であるSDGs目標の実現にむけた取り組みを推進します。

(1) あいちをたべよう大運動の推進とエシカル消費の普及

- ①地場地元の生産物を中心に、「あいちを食べよう 日本の食をたいせつに」大運動の取り組みを充実させ産地・生産者との協力しながら地産地消を広げ、地域とのつながりを強化し貢献します。
- ②エシカル消費の視点に立ち、エシカル商品や取り組みについてSDGs17の目標に照らして持続可能な生産と消費の関係や意義をデジタルも活用しながらわかりやすく発信し理解や共感を広めます。

(2) 組合員活動や様々な企画への参加（センターや店舗主催、ブロック企画等）を通し、利用をひろげます。さらに生協ファンを増やすことにつながる仕組みを構築し事業と活動をつなげます。

(3) 平和の取り組みや様々な支援活動

- ①平和とよりよい生活を目指す組織として地域に根差した平和活動を大切にすすめます。平和や安全保障をめぐる情勢を主体的に学び合う場を広げ、核廃絶と世界平和の実現、次世代への継承を目指し、オンラインや動画を活用した学びの場や署名活動を広げます。
- ②ユニセフを中心とした国際機関への協力を継続し、人道支援や、世界の飢餓・貧困削減に引き続き貢献していきます

(4) 環境の取り組み推進

- ①「コープあいち環境政策2030」の実践をさらにすすめ、掲げた環境方針の4つの柱と重点課題を確実に推進するなどSDGs経営（事業や活動を通じて社会課題を解決し持続可能な社会を実現する事業や活動）を推進し社会的な発信を強めます。
- ②2030年ビジョンで掲げた目指す姿、消費行動やくらしのあり方を見直しながら持続可能な食の循環（生産、流通、消費、回収から再生産の過程においてつながっていること）を発展させることや地球温暖化の対策に、組合員・職員と一緒に積極的に取り組みながら大切な地球を未来の子どもたちへ引き継ぐことを目指します。

(5) ダイバーシティ&インクルージョン推進

働くすべての人の多様性を尊重し、それぞれの能力やキャリアを最大限発揮できる環境を継続して発展させ、持続可能な組織をめざします。ダイバーシティ&インクルージョンに関する知識や理解を深めるための学びを継続します。

(6) 協同組合間、行政や他団体、他企業との連携

- ①地域の一員として行政、地域の諸団体、県内の協同組合とも協力し、SDGsの視点から「安心してくらせる地域づくり」の活動を推進させ各ブロックで地域の架け橋となる役割を果た

します。

- ②行政との協定は締結内容を定期的に確認し、社会情勢も踏まえ見直しするとともに、新たな支援協定の締結に向けて、積極的に相談を進めています。締結した協定は、各地域で取り組みを計画し活動を可視化します。

5. 経営や活動基盤を強め、人材確保に取り組み、コープあいちの職員誰もが誇りとやりがいをもって働ける環境づくりをすすめます。

(1) 将来展望が描ける経営や投資、組織づくり

- ①経営基盤強化を共通認識とし、経営状況を見通して年度方針で目標を具体化し、状況に合わせて年度ごとに見直しを図ります。
- ②投資に関する資金計画や、人への投資を計画します。また情勢も注視して組織機構を定期的に見直し、職務分担や人材配置、事業間連携等が機能的に推進できる組織機構をめざします。

(2) 多様な採用による人材確保や人材育成の推進

- ①あらゆる視点や方法で人材確保に取り組みます。また、再雇用活躍や女性活躍も推進します。
- ②2030ビジョンの学習や共有をすすめ、コープあいちの存在価値や各課題に取り組む目的を理解してコープあいちの未来を語れる人材育成を強化します。東海コープへの出向もキャリアとし教育体系を継続的に改善します。
- ③職員一人ひとりが意見や提案を出す場づくりや主体的に組織へ関わることを大切にします。能力を発揮しながら、職員間のつながりづくり、新しいことにチャレンジできる組織づくりをすすめます。

(3) 内部統制の強化による組織風土改善

内部統制は引き続き強化し、効率的で実効性のある仕組みへ改善します。また、組織の基本理念、倫理方針、行動規範は見直しを検討して、社会情勢も踏まえ職員の意識や組織風土改善につなげます。

(4) 自然災害への備えと事業継続のための対応計画の強化

- ①自然災害や感染症サイバー攻撃などのリスクに備え、BCP（事業継続計画）マニュアルの策定や改定、改善を継続的に実施します。
- ②全職場で定期的な訓練を実施しBCPマニュアルへいかします。全職員が訓練に参加し、自然災害や事業継続への意識改革を行います。行政や他団体との連携も充実させます。